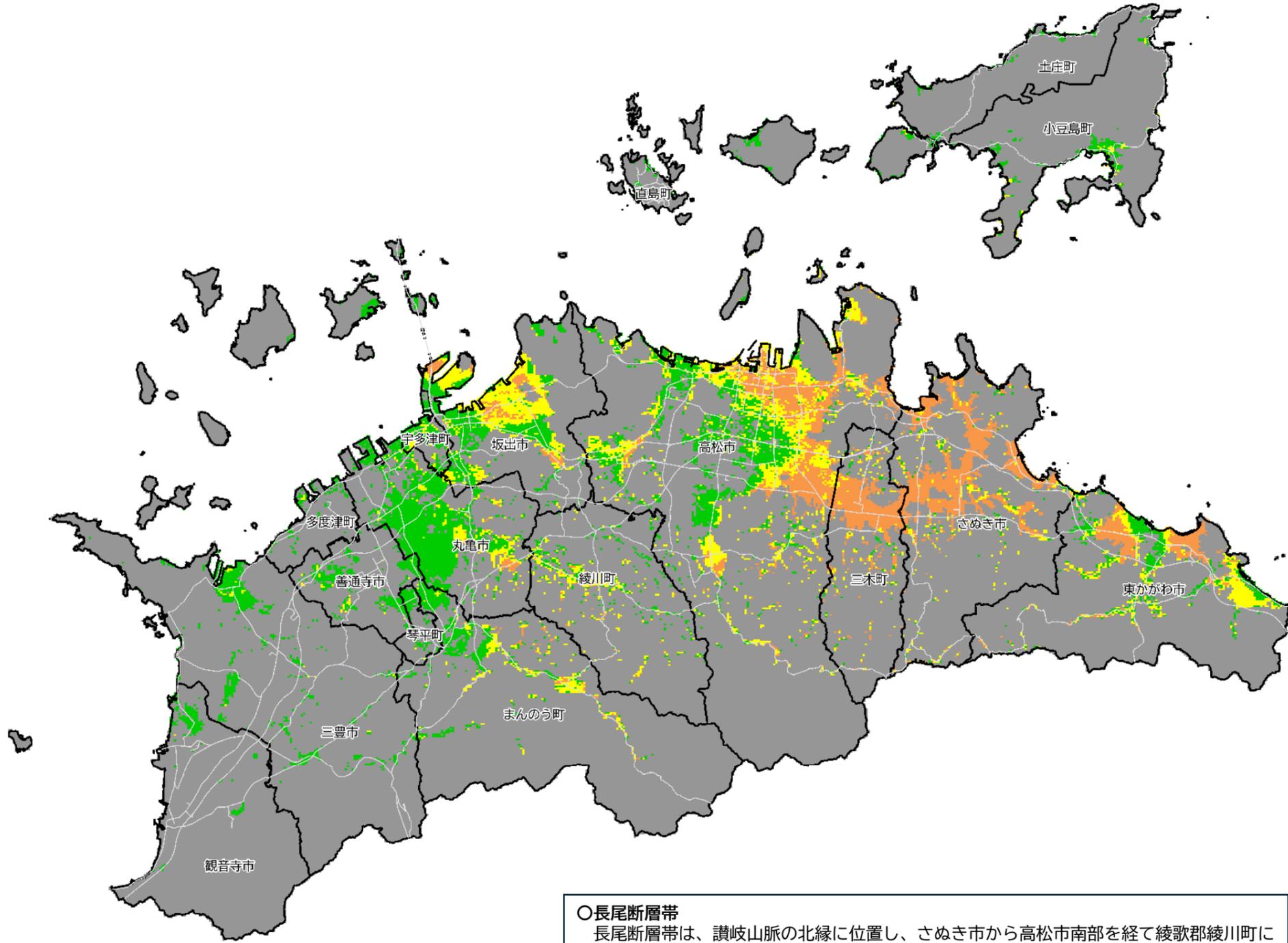


# 香川県液状化危険度予測図（長尾断層帯）



	危険度A (液状化危険度はかなり高い)
	危険度B (液状化危険度は高い)
	危険度C (液状化危険度は低い)
	危険度D (液状化危険度はかなり低い)

液状化の危険度がどの程度であることを示しています。

- この液状化危険度は、液状化現象の発生を予測する一定の目安であり、危険度が高い地域であっても、全てが必ず液状化するというものではありません。
- 危険度が高い地域では、重要な構造物等を設計する際に、液状化に関する詳細な調査及び対策をする必要があるとされています。
- 液状化により道路に段差が生じたり、砂や水などが噴出し、避難の妨げになることがあります。
- 液状化による被害も考慮し、揺れがおさまったら、速やかに避難を開始しましょう。

○長尾断層帯  
 長尾断層帯は、讃岐山脈の北縁に位置し、さぬき市から高松市南部を経て綾歌郡綾川町に至る断層で、平均活動間隔（発生頻度）は概ね3万年程度となっています。  
 この震度分布図は、長尾断層の断層モデルとして国が示した4つのモデルのうち、本県に影響の大きいモデルによる震度を示したものです。

